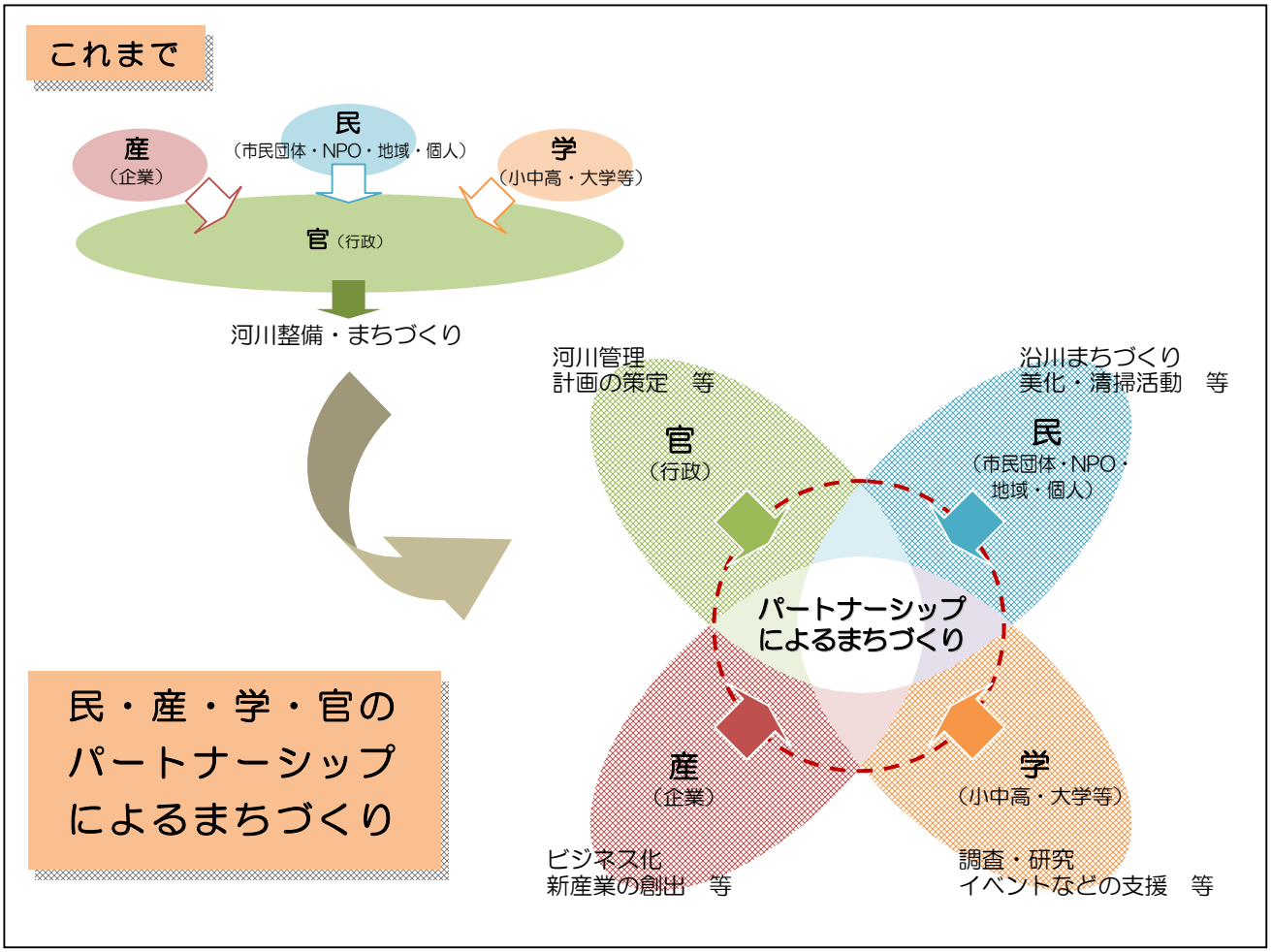
５章　実現に向けて

１．パートナーシップによるまちづくり

堀川では、これまでにも、水質浄化・環境美化活動や歴史を活かした取り組み、祭りやイベントの開催など、多くの実施主体による活発なまちづくり活動が実践されており、堀川における市民活動の水準は既に高いレベルにあります。しかしながら、活動の多くが一部の団体に限られたものであり、団体相互の横のつながりも十分なものではありません。また、活動の舞台が河川であることから、河川整備はもとより堀川における多くのまちづくり活動が行政主導で取り組まれる傾向が強くなっています。

今後、堀川が市民の誇りとなる魅力ある川を目指すためには、堀川を舞台に多くの市民や企業、小中高・大学など、様々な実施主体が、親しみや愛着を持って活動できるような環境を整えることが必要です。市民（民･産･学）と行政（官）が、それぞれの自主性・自発性のもとに、相互の特性を認識・尊重しあいながら役割分担し、地域の魅力づくりと地域課題の解決に協力・協調して取り組むこと、すなわちパートナーシップのまちづくりを進めていかなければなりません。

従来の行政主導による仕組みではなく、市民と行政が、まちづくりにおける「目的・目標」を共有しながら、お互いの持つ強みを活かし合い、補い合うことができる仕組みを構築し、市民の意志や力をこれまで以上に活かしたまちづくりを進めます。



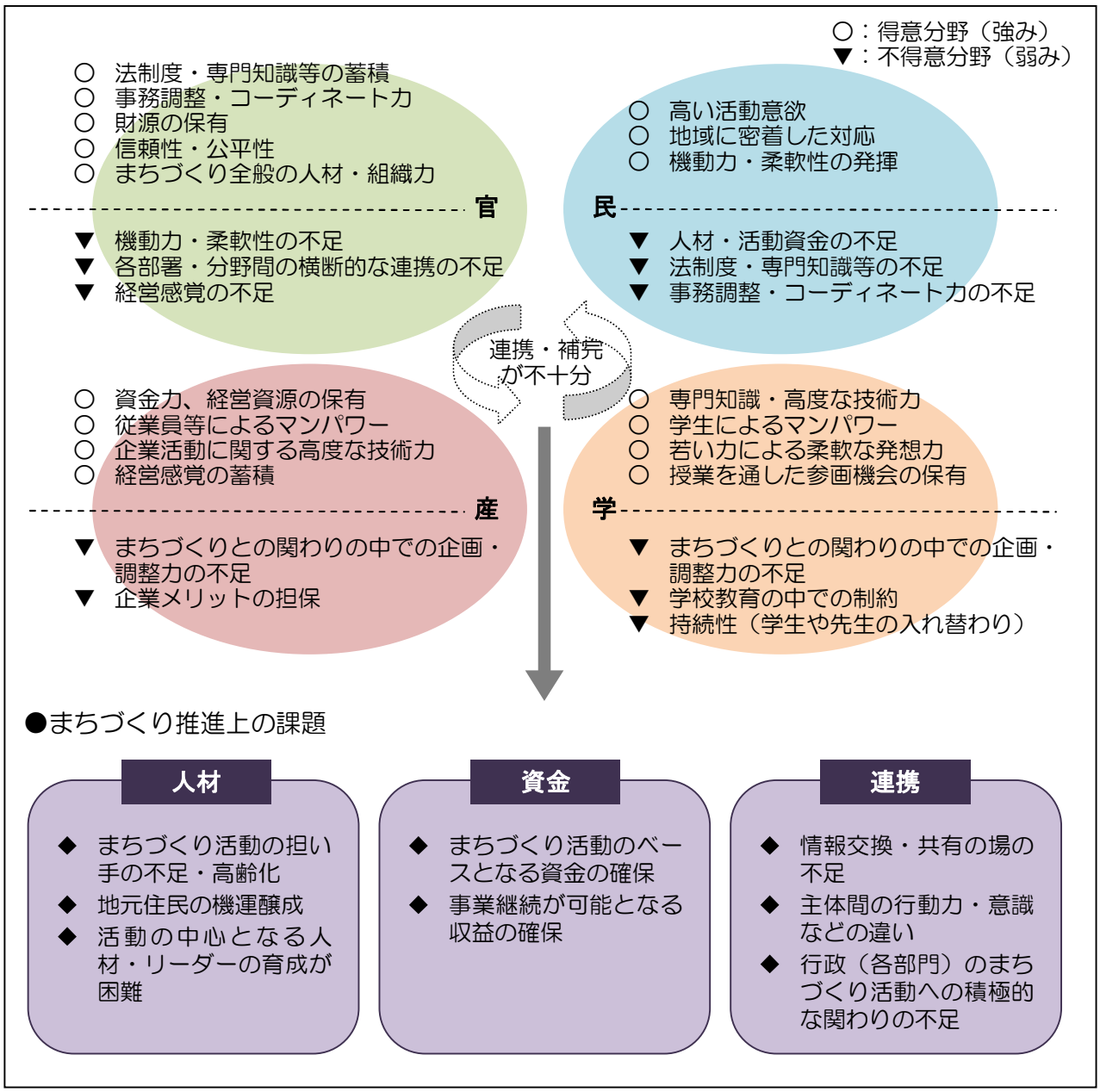
２．構想実現に向けた道すじ

「民・産・学・官のパートナーシップによるまちづくり」を実践していくにあたって、民・産・学・官それぞれの主体が、各々の得意分野（強み）や不得意分野（弱み）を理解しあい、相互に補完しあいながら、密接な連携を図っていくことが重要です。

（１）まちづくり推進上の課題

現状のまちづくり活動においては、主体ごとの得意・不得意分野が十分に連携・補完されていないことによって、人材、資金、連携などの面において課題が生じています。

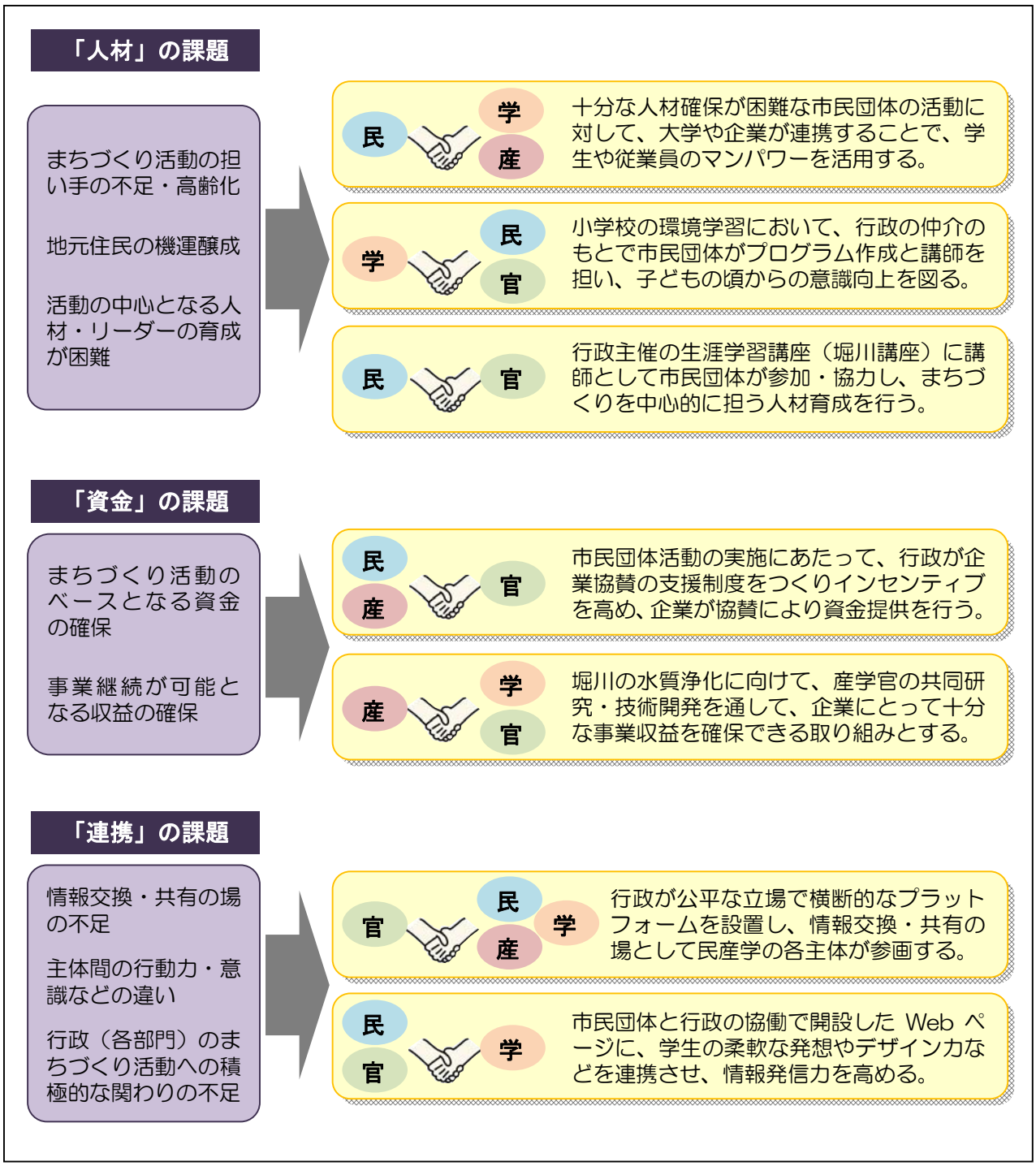
■主体ごとの得意・不得意分野とまちづくり推進上の課題



（2）課題解決に向けた道すじ

4章で設定した堀川まちづくりの指針の実現をめざし、以下の例を参考にして、民・産・学・官それぞれの主体間のより密接な連携・協力により課題解決を図るまちづくりを進めます。

■まちづくり推進上の課題解決に向けた道すじ（例）



３．推進方策

「市民の誇りとなる堀川」を実現するために、堀川力の向上に向けて掲げた「利活用」「まちとの一体性」「連携」の３つの視点を踏まえ、次の方策などに基づいて、まちづくり推進上の課題を解決し、民・産・学・官のパートナーシップによるまちづくりを実践していきます。

（１）河川の利活用と人材育成等の支援

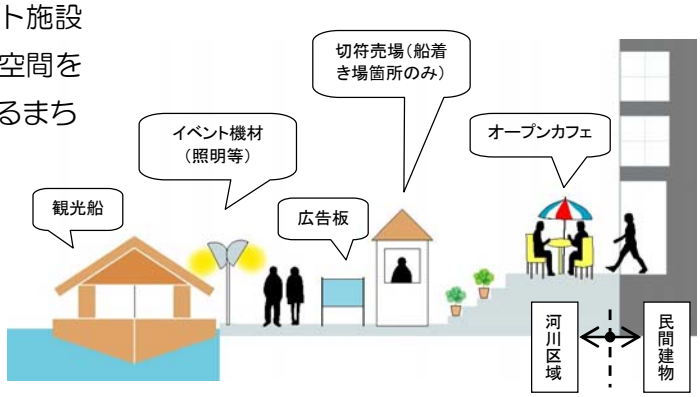
①規制等の弾力的な運用による利活用の促進

現状では法規制などがネックとなり河川及び沿川の空間が十分に利活用されていない状況も見られるため、以下の例のように、障壁となっている規制などを弾力的に運用することで、河川及び沿川空間の一層の利活用を促していきます。

■規制等の弾力的な運用による河川空間の利活用方策（例）

地域活性化のための河川敷地の占用に関する規制緩和

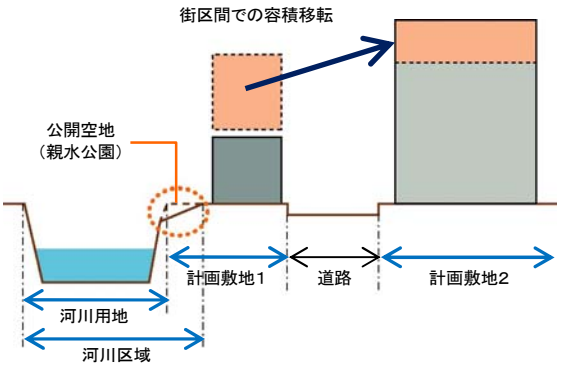
○ 地域活性化等の観点から、イベント施設やオープンカフェの設置など水辺空間を活かしたにぎわいの創出や魅力あるまちづくりに向けて、地域のニーズに対応した河川敷地の多様な利用を可能とする。



複数敷地間の容積移転などによる沿川空間の有効活用

○ 「特例容積率適用地区制度」（都市計画法第８条第３項第２号のホ）や一団地認定（建築基準法 86 条）などを活用し、複数敷地間で容積を移転することにより、河川沿いにオープンスペース（親水公園的空間）を生み出す。

○ これにより、まとまった建築物の建築や良好な水辺空間の創造が可能となる。



②まちづくり人材育成等の仕組みづくり支援

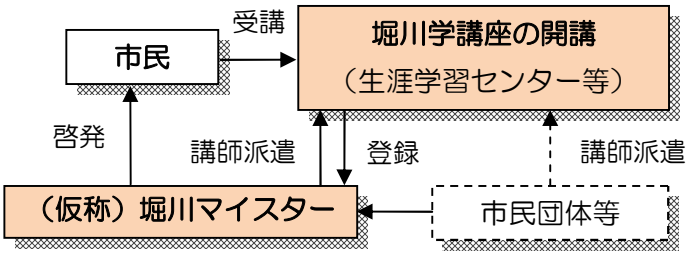
堀川では、これまで様々な団体・組織が活動を行ってきていますが、人材面、資金面などの制約によって、十分な活動を実践できていない実情も見られるため、以下の例のように、課題解決に向けた方策を講じることで、団体・組織が意欲や使命に応じて十分な活動を実践できるサポート環境を整えていきます。

■まちづくり活動を担う人材確保や資金調達を促す方策（例）

市民が市民を育てるまちづくり人材育成の仕組みづくり

○ 「（仮称）堀川マイスター制度」を創設し、生涯学習センター等で実施する「堀川学講座」の受講者を堀川マイスターとして登録。

○ 登録された堀川マイスターは、堀川学講座の講師としても活躍していただく。



堀川に関心をもつ人を増やすための取り組み

○ 堀川 1000 人調査隊が行っている「堀川応援隊」の取り組みを推進し、堀川に興味や関心をもつ人、堀川のまちづくり活動を応援する人の裾野を拡大する。登録された堀川応援隊には、随時情報発信を行い、堀川まちづくり活動への参加を啓発する。

○ 堀川に関する総合的な情報提供を行うウェブサイト「（仮称）堀川ナビ」を開設するとともに、シンポジウムの開催や「（仮称）堀川まちづくりの会」による意見・提案窓口の設置など、様々なチャンネルを用いた情報の発信・共有の機会を拡充する。

○ また、堀川に興味や関心をもって集まった人が、堀川まちづくりに継続して関わっていけるように、楽しみながら活動を続けられる工夫を講じる。

市民からの寄付金や企業からの協賛金をまちづくりに活かす仕組みづくり

○ ふるさと納税制度の活用やコミュニティファンドの創設など、堀川のまちづくりを応援する市民からの寄付や企業からの協賛金をまちづくり活動に活用するための仕組みをつくる。

○ スポンサー花壇の設置、桜並木や樹木などのオーナー制度などを活用し、市民や企業の参加と協働によるまちづくりを推進する。

（２）まちづくりと一体となった取り組みの推進

堀川では、これまでに民・産・学・官の様々な主体が、それぞれの分野や活動エリアで様々な活動を展開しています。しかし、それらの多くが、分野やエリアごとの活動であったり、また、川における活動として行われることが多く、他分野や周辺のまちと関わることで発展する余地を残しています。

今後、堀川における魅力あるまちづくりを一層進めていくため、分野やテーマを横断する取り組みを支援・推進するとともに、エリア間の連携や周辺のまちとの一体的な取り組みに向けた段階的なまちづくりを支援・推進します。

■まちづくりと一体となった取り組みを促す方策（例）

横断的なまちづくりの推進

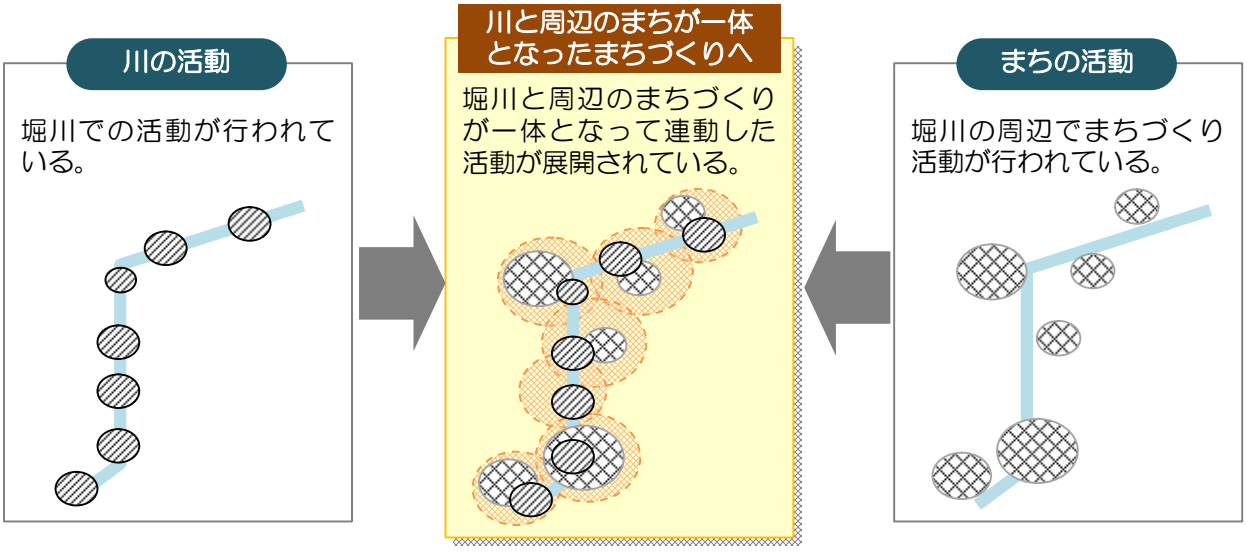
○ 河川区域に接する道路や公園などの公共用地については、用途は異なるものの同じ公共空間として、河川区域と一体となった土地利用が望まれます。沿川の土地利用の実情に合わせて、川と道路や公園をつないだ一体的な土地利用により、沿川の有効利用を図ります。

○ 市民団体などにおいては、それぞれが環境美化、歴史、文化、緑化、舟運など様々なテーマで活動していますが、団体相互の連携を密にし、コラボレーションによる新たな魅力や価値を創造する取り組みを支援・推進します。

○ 行政においては、河川のほか、道路、公園、市街地整備、観光、交通、環境、歴史まちづくりなどの組織間の連携を密にし、総合的な観点から堀川のまちづくりを推進します。

段階的なまちづくりの推進

○ エリアごとに活動の熟度は異なりますが、エリアの実情に合わせて、川と周辺のまちが一体となったまちづくりへと発展させていく段階的なまちづくりを支援・推進します。



■拠点エリアのまちづくり推進方策

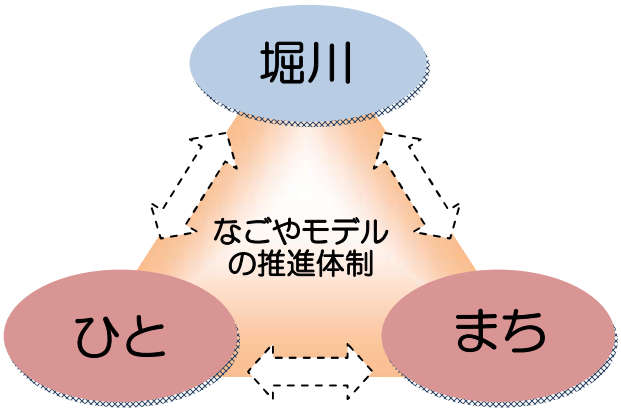
７つの拠点エリアについて、堀川と周辺のまちが一体となった魅力あるまちづくりを展開するための考え方を示します。

エリア名	拠点エリアのまちづくり推進の考え方	
	現　　状	展開例
Ⅰ　黒　川 エリア	遊歩道などの親水空間の整備が進められている。地域に根差した市民活動団体等により、地域住民や学校とともに自然観察会や清掃活動、友禅流しなどエリア内での活動が活発に実践されている。	今後も地域住民の参画を一層深めながら、他エリアとの連携も含めて沿川のまちづくりと一体となった取り組みをさらに推進し、堀川を中心として水と緑の自然ゆたかな地域づくりを進める。
Ⅱ　名古屋城 エリア	護岸や船着き場等の整備が進んでおり、本丸御殿復元など名古屋城の歴史を活かしたプロジェクトが進められている。名古屋城や名城公園でイベントが開催されているが、堀川での市民や団体等による活動はあまり行われていない。	名古屋城や名城公園と連携させた市民や団体等によるエリア内の活動を活発化するとともに、朝日橋船着き場から名古屋城へのにぎわい創出を行い、舟運による他エリアとの連携強化や名古屋城を拠点とした沿川観光の活性化を図っていく。
Ⅲ　四間道 エリア	周辺の町並み保存地区などでは地域住民や団体等による歴史を活かしたまちづくり活動が行われているが、堀川との関わりが薄い。護岸等の整備も未実施であり、沿川の建物や土地と川とのつながりも希薄である。	護岸や船着き場等の整備、沿川の建物や土地の親水性の向上などにより堀川としての魅力づくりを進めるとともに、舟運による他エリアとの連携強化や歴史資産を活かした周辺まちづくりとの連携を深める。
Ⅳ　納屋橋 エリア	護岸や船着き場等の整備がほぼ終わり、堀川のにぎわい創出の中心的なエリアとして、様々な団体・組織等によるイベントなどが活発に実践されている。また、イベント時には舟運による他エリアとの連携も図られている。	市街地再開発事業による施設整備を進めるなど、堀川舟運の基地として拠点性を高め、他エリアとの連携を強化するとともに、地域住民や企業等の参画を一層深めながら、沿川のまちづくりと一体となった取り組みをさらに推進し、堀川のにぎわいの中心として活気あふれる地域づくりを進める。

エリア名	拠点エリアのまちづくり推進の考え方	
	現　　状	展開例
Ⅴ　日置・松重エリア	松重閘門を拠点とした親水広場や護岸整備が計画されており、隣接する中川運河の再生計画も策定されたが、沿川や周辺における市民や団体等による活動はあまり行われていない。日置橋周辺ではかつての桜の名所の再生を目指して植樹事業が進められている。	護岸や親水広場、船着き場等の整備、桜の名所の再生などにより、松重閘門を拠点とした堀川の魅力づくりを進めるとともに、舟運による他エリアとの連携、中川運河との連携強化を図りつつ、堀川を活かしたまちづくりへの機運を高め、地域住民を巻き込んだまちづくり活動を展開していく。
Ⅵ　熱　田エリア	護岸や船着き場等の整備が完了し、白鳥地区、宮の渡し地区において、団体や学生等によるまちづくり活動やイベントが実践されている。また、イベント時には舟運による他エリアとの連携も図られている。	これまでに整備された船着き場やプロムナードなどを有効利用し、団体や学生等によるまちづくり活動を一層活発化させるとともに、舟運による桑名方面など域外も含めた他エリアとの連携強化や熱田神宮、宿場町などの歴史資源を活かしたまちづくりへの機運を高め、地域住民を巻き込んだまちづくり活動を展開していく。
Ⅶ　堀川口エリア	沿川には倉庫や工場が建ち並び、沿川での市民や団体等による活動はほとんど行われていない。名古屋港ガーデンふ頭では、にぎわいづくりの取り組みが進められているが、堀川との関わりは希薄である。	河口部の広い水面を有効利用するなど、堀川を活かした活動の機運を高め、堀川としての魅力づくりを進めるとともに、舟運による域外も含めた他エリアとの連携強化やガーデンふ頭および築地地区のまちづくり活動との連携強化を図り、地域住民を巻き込んだまちづくり活動を展開していく。

（３）連携による推進体制の構築

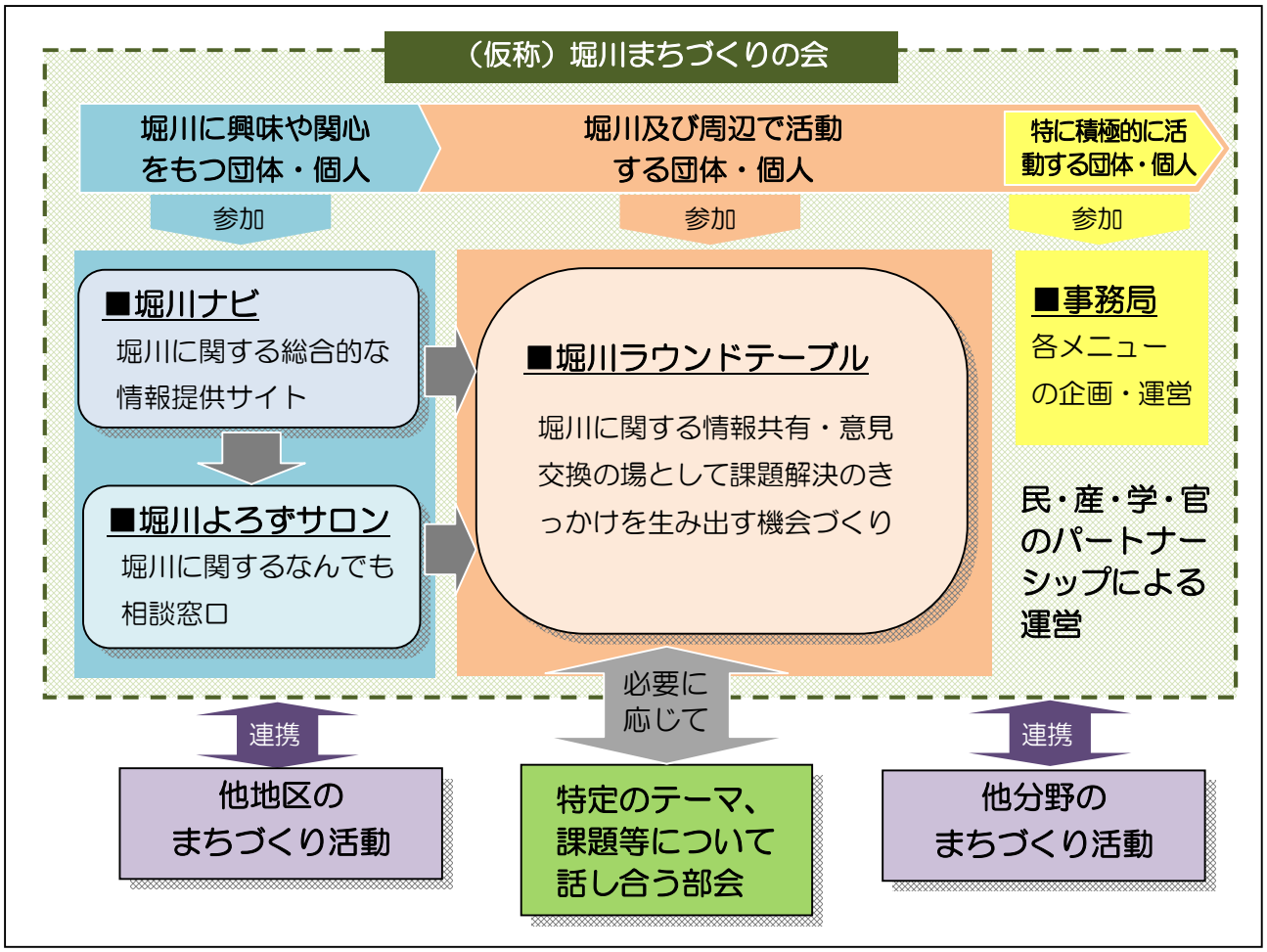
堀川での多くの活動実績を持つ民・産・学・官が、それぞれの得意分野を活かし不得意分野を補完しあうパートナーシップによるまちづくりを進める『なごやモデル』の推進体制の構築をめざしていきます。



堀川や周辺で活動する方たちによる情報共有と意見交換の場を創設し、イベントの共同開催やそれぞれがもつ課題解決のきっかけ作りを進めます。特定のテーマ、課題についての話し合いが必要な場合には、関係団体による部会の開催など、必要に応じてより深い協議が行えるしくみづくりを進めます。

また、新たに活動の提案や相談を受けとめる場として、相談窓口の設置や、情報共有・情報発信の場として、各団体の活動、イベント、窓口の案内などの情報を提供する専用ウェブサイトの設置など、堀川での活動のすそ野を拡げるしくみづくりを進めていきます。

■なごやモデルの推進体制（例）　～（仮称）堀川まちづくりの会～



参考資料

１．策定経緯

「堀川まちづくり構想」の策定にあたっては、副市長を座長とした「堀川まちづくり協議会」を設置し協議を進めました。また「堀川まちづくり協議会」の下部組織として「堀川まちづくり協議会幹事会」を設置し協議事項についての調査検討を実施、さらに専門的な検討をするために「にぎわい部会」を開催し堀川に関わる多くの市民団体の意見を集約してきました。

また策定期間中に堀川に関するネットモニターアンケートや、シンポジウムを実施し、集約した市民意見も踏まえて構想を策定しました。

○ 堀川まちづくり協議会　委員名簿　　（　　）は前委員

役職	氏名	所属等
座長	入倉　憲二 （山田　雅雄）	名古屋市　副市長
委員	川口　正秀	クリーン堀川　会長
	服部　　宏	堀川 1000 人調査隊 2010 実行委員会　事務局長
	内田　吉彦	名古屋商工会議所　理事　産業振興部長
	菅原　章文	社団法人中部経済連合会　常務理事
	松尾　直規	中部大学　工学部長
	森田　優己	桜花学園大学　学芸学部　教授
	秀島　栄三	名古屋工業大学大学院　工学研究科　教授
	小林　正典 （古川　　陽）	国土交通省　中部地方整備局　建政部長
	五十嵐　崇博 （田村　秀夫） （山根　尚之）	国土交通省　中部地方整備局　河川部長
	守屋　正平 （春日井　康夫）	国土交通省　中部地方整備局　港湾空港部長
	吉永　隆博 （橋本　昌典） （森　　勝彦）	国土交通省　中部運輸局　企画観光部長
	曽宮　和夫 （田村　省二）	環境省　中部環境事務所　統括自然保護企画官
	新開　輝夫 （鈴木　邦尚）	名古屋市　市民経済局長
	西川　　敏 （長谷川　和司）	名古屋市　環境局長
	田宮　正道	名古屋市　住宅都市局長
	山本　秀隆 （村上　芳樹）	名古屋市　緑政土木局長
	長谷川　和司 （三宅　　勝）	名古屋市　上下水道局長
	錦見　桂司 （鈴木　泰治）	名古屋港管理組合　企画調整室長
	羽根田　英樹	名古屋都市センター　上席調査研究統括官

○ 堀川まちづくり協議会幹事会　幹事名簿　　（　　）は前委員

役職	所属等	
会長	名古屋市	緑政土木局　河川部長 （緑政土木局参事【堀川総合整備】）
幹事	国土交通省中部地方整備局	建政部　都市整備課長
		河川部　地域河川課長
		港湾空港部　港湾計画課長
	国土交通省中部運輸局	企画観光部　観光地域振興課長
	環境省中部地方環境事務所	国立公園・保全整備課長
	名古屋市	市民経済局文化観光部観光推進室長
		環境局環境企画部環境企画課長 （環境局環境都市推進部生物多様性企画室長）
		環境局地域環境対策部地域環境対策課長
		住宅都市局都市計画部都市計画課長
		住宅都市局まちづくり企画部まちづくり企画課長
		住宅都市局まちづくり企画部臨海開発推進課長
		住宅都市局まちづくり企画部歴史まちづくり推進室長
		住宅都市局市街地整備部市街地整備課長
		緑政土木局主幹【企画】
		緑政土木局河川部河川管理課長
		緑政土木局河川部河川計画課長 （緑政土木局河川部堀川総合整備室長）
		緑政土木局河川部河川工務課長
		緑政土木局緑地部緑地計画課長 （緑政土木局緑地部緑化推進課長）
		上下水道局経営本部企画部経営企画課長
		上下水道局技術本部計画部下水道計画課長
	名古屋港管理組合	企画調整室計画担当課長
	名古屋都市センター	調査課長

≪協議会の会議状況≫

≪幹事会の会議状況≫

○ 堀川まちづくり協議会幹事会「にぎわい部会」　参加者名簿（開催当時）

役職	参加者	
部会長	秀島　栄三	名古屋工業大学大学院工学研究科　准教授
部会員	堀川まちづくり協議会幹事会　幹事	
	堀川に関する市民団体	堀川 400 年祭に関わった団体を中心に参加
	区役所まちづくり推進室	北・西・中・熱田の各区役所
	その他（関係回に参加）	市環境科学研究所、日本造園学会

≪にぎわい部会の会議状況≫

≪にぎわい部会でのワークショップの状況≫

○ 堀川まちづくり協議会　開催経過

	開催年月日	事　　項
協議会	平成 22 年　8 月　26 日	第１回　堀川まちづくり協議会
	平成 23 年　6 月　21 日	第２回　堀川まちづくり協議会
	平成 24 年　2 月　14 日	第３回　堀川まちづくり協議会
	平成 24 年　8 月　28 日	第４回　堀川まちづくり協議会
幹事会	平成 22 年　11 月　30 日	第１回　堀川まちづくり協議会幹事会
	平成 23 年　2 月　3 日	第２回　堀川まちづくり協議会幹事会
	6 月　1 日	第３回　堀川まちづくり協議会幹事会
	12 月　20 日	第４回　堀川まちづくり協議会幹事会
	平成 24 年　1 月　24 日	第５回　堀川まちづくり協議会幹事会

○ 堀川まちづくり協議会幹事会「にぎわい部会」開催経過

	開催年月日	事　　項
第１回	平成 23 年　　９月　　９日	テーマ「歴史・文化」 参加市民団体　　４団体
第２回	９月　28 日	テーマ「祭と交流の舞台・船の活用」 参加市民団体　　８団体
第３回	10 月　20 日	テーマ「水・緑・生物を育む」 参加市民団体　　５団体
第４回	11 月　17 日	テーマ「堀川を活かした景観・楽しむ場」 参加市民団体　　３団体

○ パブリックコメント

実施期間	平成 24 年６月１日(金)～平成 24 年７月６日(金)（36 日間）
提出状況	・意見提出者数：34 名 ・意見提出方法 郵　　送：　６名　　ファックス：　８名 電子メール：１４名　　持　　参：　６名 ・意 見 総 数：８４建

○ その他

開催年月日	事　　項
平成23年　　８月　　５日	堀川まちづくり協議会幹事会　現地見学会　　開催
11 月　　４日 ～　14 日	ネット・モニターアンケート「堀川について」　　実施
12 月　10 日	水辺×まちづくり 堀川の水辺空間活用シンポジウム　　開催

≪幹事会現地見学会≫

２．にぎわいづくりのアイデアとヒント（にぎわい部会より）

堀川まちづくり協議会にぎわい部会では、堀川まちづくりの６つのテーマ毎ににぎわいづくりのためにこれまで取り組んできたことや、今後取り組んでみたいことを提案しあい、さらに、取り組み実現における課題と課題解決に向けたアイデアについても、意見を出し合いました。

そして、今後の堀川でのにぎわいづくりに活かせるよう、これらのアイデアをヒントペーパーとして取りまとめました。

堀川での取り組み

歴史・文化の掘り起こし

●歴史散策ウォーキング、講演会、展示会の開催
○語り部による座談会の開催
◎堀川にある歴史・文化施設の整理、案内
◎歴史的建造物を活用した周辺まちづくりとの連携

イベントの開催

●川の中や船上からの生物観察会、魚の放流、外来種駆除
○屋台の出店、楽器の演奏など人が集まるイベント
○上流から下流までのいっせい清掃活動
○水質浄化効果のある植物を植え、市民参加による収穫祭
○写真コンテスト
◎５年くらい毎の大規模な名城・堀川まつりと花火大会
◎かつて堀川で行われていた伝統行事の発掘・復活
◎複数の地区を水上バスで繋いでの同時開催イベント
◎にっぽんど真ん中祭りのような市民参加型イベント
◎英傑行列、どまつりなど市民に定着している祭の堀川での開催
◎400 年の歴史を子どもたちに伝えられるようなイベント
◎堀川で活動している人々が皆で一緒に取り組むイベント

その他

●イベントの際に上下流交流として岐阜・長野の特産物を販売
○堀川ギャラリーの更なる活用

周知・案内

●歴史散策ボランティアガイド・クルージングガイドの実施
○拠点地区での観光・名物・飲食などを紹介する施設の設置
○ツイッター、ソーシャルネットなどＩＴを活用したロコミ
○船着き場を拠点とした歴史散策マップ、緑と花のマップの作成
◎官民一体となった事業やイベントの周知、宣伝

舟運の活用

●貸切船・ゴンドラの運航
○国際会議場やポートメッセでの催しに合わせて運航
○堰により水位を一定にしてボート遊びを開催
○花見船や月見船などイベント船の運航
◎水上バスの定期運航
◎七里の渡し（熱田－桑名）航路の復活

施設整備

●護岸整備、ヘドロのしゅんせつ
○桜の植樹による桜並木の復活
○企業とタイアップした花壇づくり
◎散策道、休憩施設、船着き場を設置
◎堀川観察館の設置

●：既に実施しているもの
○：具体的な提案
◎：概略的な提案

課　題	解決へのアイデア

人　材

- 後継者不足
- かつてのにぎわいを知る人の高齢化
- 取り組みの中心となる人材が限定、育成が必要
- 地元ボランティアが不可欠
- 納屋橋周辺は居住者が少なく、土日の地元ボランティアの確保が困難

資　金

- 事業継続が可能となる収益の確保
- ベースとなる資金の確保
- 主に広報面での資金集め
- 資金面や周囲の人々の行動力の欠如
- 楽しいイベント時の販促の少なさ
- 企業等からの協賛金の縮小

地域・行政などとの連携

- 観光施策として観光部署の積極的な関わりが必要
- 行政が引っ張り、市民団体が後押しする形が理想
- 堀川沿いの企業によるコラボ
- にぎわいづくりに関して情報交換会の場がない
- 地元住民の機運醸成が必要
- 行動力、法規制、そして堀川に対する意識のちがい
- 他の団体のイベントに協力したくても情報がはいってこない
- 事務局は、公平な視点で全体を眺めて推進していける機関が担うべき

その他

- 港湾区域での許認可手続きが煩雑
- 残された歴史的建造物の保存・活用策
- 臭い、汚いといった堀川のイメージ回復
- 興味がある人が絶対に集まるという“コレ”が堀川にはない
- ビジネスチャンスとして入ってくる人がうまく融合できる受け皿が必要
- 川に生き物が見られない

人材育成・発掘

- 生涯学習センター等で「堀川学」講座を開講し、受講生の OB 会を組織
- 堀川マイスター制度の創設
- 市民団体からの堀川関連講座への講師の派遣
- 小学校での堀川の歴史教育・環境教育
- 学校が取り組みたくなる学習プログラムの確立
- 段階的な参加の仕組みの構築（学ぶ・聴く・行動する）

資金調達

- 柔軟な助成金制度の創設
- 企業が協賛したくなるメニューの検討
- 企業からの協賛金や市民からの寄付を受け入れる基金の創設

組織・情報発信

- 多くの関係者が定期的に集まり情報共有を行う場の設置
- 市民団体の団結による連合組織の結成
- 若い力を発揮できる場の創出
- 堀川関連の情報を網羅した専用ウェブサイトによる情報発信
- キラッと名古屋等アナログ媒体での情報発信

魅力発信

- 堀川ブランドの確立
- まち歩き単体ではなく、食事など他のテーマとのコラボによるイベントの開催
- 生き物がいることを見せるしかけづくり
- 団扇絵など歴史資産を活用したグッズ製作
- 堀川ではいつも何かが行われているというイメージづくり
- 名古屋城とのコラボ
- 市民が主体となる場というイメージづくり

その他

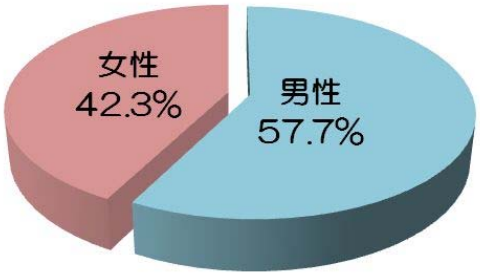
- イメージ回復のための水質浄化施策の推進

３．ネット・モニターアンケートの概要（抜粋）

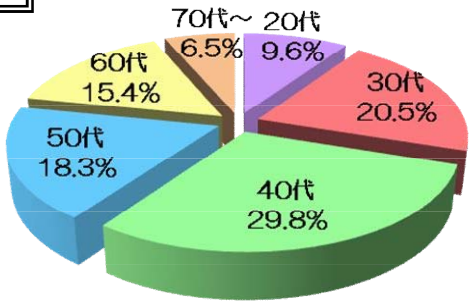
市民の皆様が堀川についてどのように感じ、何を求めているのかをおたずねし構想策定の参考とするためネット・モニターアンケートを実施しました。

調査テーマ	堀川について
アンケート実施期間	平成 23 年 11 月 4 日（金）から平成 23 年 11 月 14 日（月）まで
モニター数	499 人
アンケート回答数	449 人（有効回答率：90.0%）

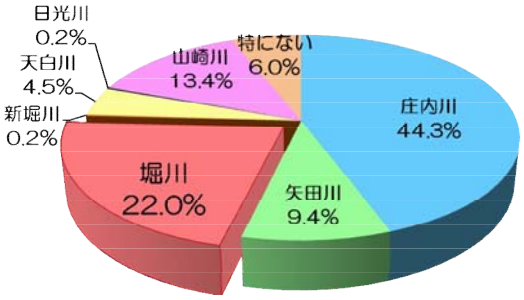
性別構成



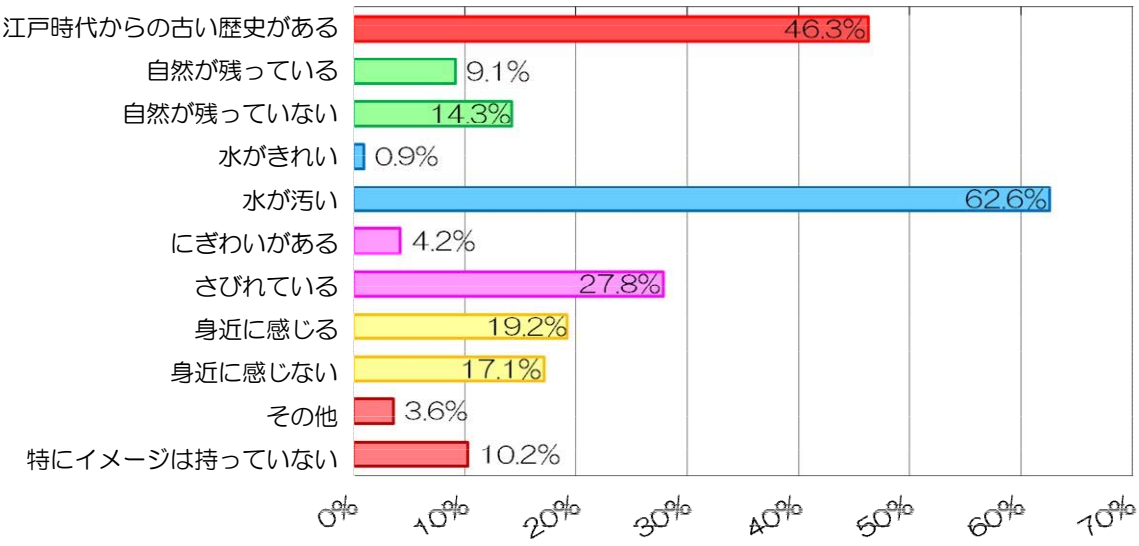
年代構成



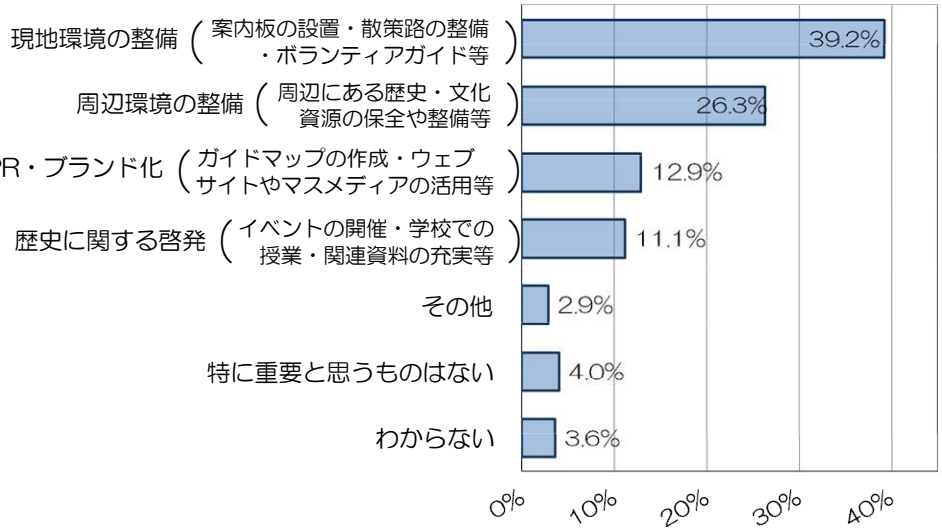
◆ あなたが名古屋を代表する川としてイメージするのはどれですか



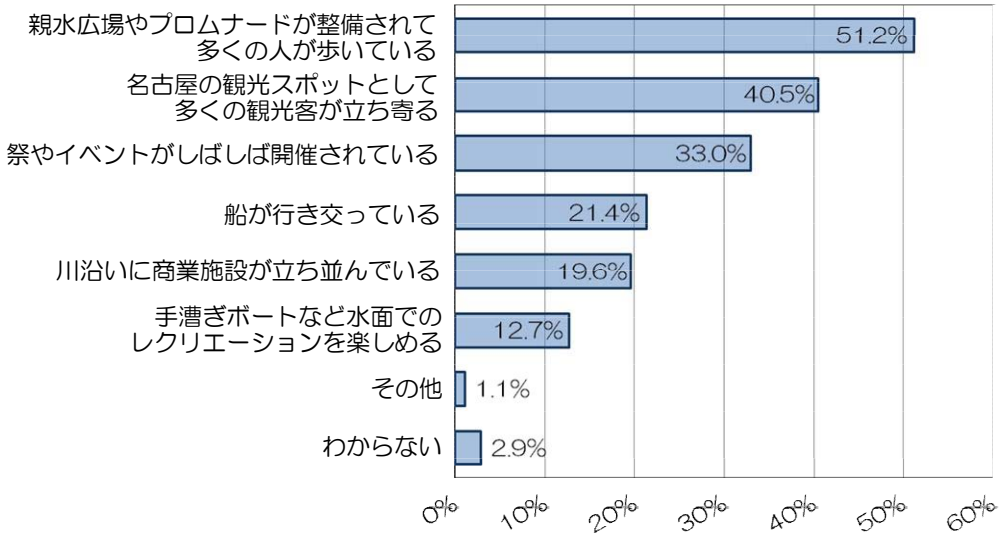
◆ あなたは堀川にどんなイメージを持っていますか（複数回答可）



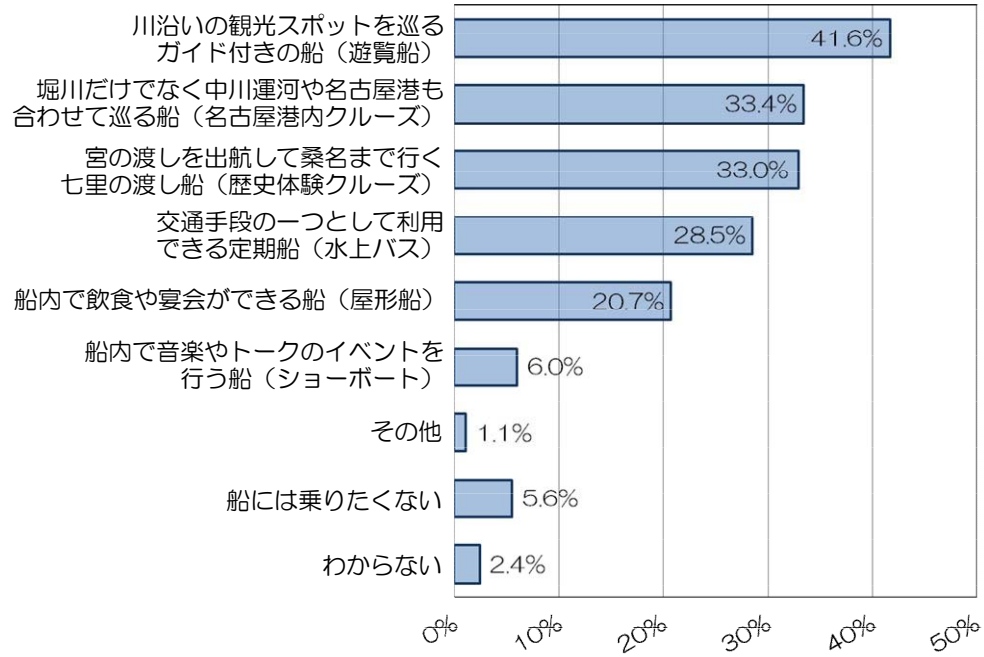
◆ 「堀川の歴史・文化を活かしたにぎわいづくり」で最も重要と思うのはどれですか



◆ 堀川の「にぎわい」とはどのようなものがふさわしいと思いますか（複数回答可）



◆ 堀川で船に乗れるとしたら、どんな船に乗ってみたいですか（複数回答可）



４．堀川の水辺空間活用シンポジウム

水辺×まちづくり
堀川の水辺空間活用シンポジウム

日時　平成 23 年 12 月 10 日（土）17:00～19:30
場所　朝日ホール（朝日会館 15 階）
主催　堀川 1000 人調査隊 2010 実行委員会
　　堀川ウォーターマジックフェスティバル実行委員会
　　名古屋都市センター
　　名古屋市

概要

開催内容
第１部　各都市事例紹介・水辺とまちのつながり方

1　大阪の事例…NPO 法人水都 OSAKA 水辺のまち再生プロジェクト　理事　末村巧氏

2　広島の事例…水の都ひろしま推進協議会　事務局
　　広島市都市活性化局観光交流部交流課水の都担当　勢良寛氏

3　東京の事例…BOAT PEOPLE Association　山崎博史氏

第２部　トークセッション・水辺空間の使い方

1　山崎亮氏（Studio-L 代表、京都造形芸術大学教授）講演

2　山崎亮さんと語る、堀川の水辺空間の使い方
　パネリスト
　○山崎亮氏　Studio-L 代表、京都造形芸術大学教授
　○丹坂和弘氏　堀川ウォーターマジックフェスティバル実行委員会
　○秀島栄三氏　名古屋工業大学大学院准教授、堀川まちづくり協議会委員
　○羽根田英樹氏　名古屋都市センター上席調査研究統括監、堀川まちづくり協議会委員

総合司会　　○服部宏氏　堀川 1000 人調査隊 2010 実行委員会事務局長、堀川まちづくり協議会委員

●参加者数　約 150 名

1

開催記録

あいさつ（服部宏氏　堀川 1000 人調査隊 2010 実行委員会事務局長）

本日は、堀川 1000 人調査隊 2010 実行委員会、堀川ウォーターマジックフェスティバル実行委員会、名古屋都市センター、名古屋市の４団体の協働主催で開催いたしました。

シンポジウムのタイトルに、「堀川×（かける）まちづくり」とありますが、この“かける”というところに、本日のシンポジウムを開催するにあたっての、“思い”が込められています。皆さんは一生懸命堀川での活動に取り組んでいらっしゃいますが、もっともっと堀川を良くしていくために、様々な事例を聞いて、“気づき”を生み出していただくということが、本日の最大のテーマです。そして、気づいたことを“かける”ことで、より大きな成果にしていきたいです。

大阪や広島や東京から来ていただいている皆さんの中には、もうすでに今朝から堀川をずっと歩かれた方もいらっしゃいます。そういった方々の素晴らしい熱意を私たちも受け取り、シンポジウムを有意義なものにしたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

第１部　各都市事例紹介・水辺とまちのつながり方

１　大阪の事例（NPO 法人水都 OSAKA 水辺のまち再生プロジェクト理事　末村巧氏）

北浜テラスの取り組みや、水辺ランチや水辺不動産、水辺 MAP の活動を通じた、市民や沿川地権者等への水辺のまちの魅力や情報発信の取り組みについて発表。

２　広島の事例（水の都ひろしま推進協議会事務局
広島市都市活性化局観光交流部交流課水の都担当　勢良寛氏）

河川河岸緑地のオープンカフェ、市民民間活動との連携、雁木等の親水空間を始めとした川面に向いたまちづくりの取り組みについて発表。

３　東京の事例（BOAT PEOPLE Association　山崎博史氏）

船×αの企画による新しい水辺の楽しみ方や、水面に触れる機会づくり、水辺とまちのつながり、水辺魅力の情報発信の取り組みについて発表。

第２部　トークセッション・水辺空間の使い方

１　山崎亮氏（Studio-L 代表、京都造形芸術大学教授）講演

使う人次第で都市基盤がいかに魅力的な空間になり得るか、また、そのために市民、市民団体、行政は、何を考えて行動しなければならないのかについて講演。

２　山崎亮さんと語る、堀川の水辺空間の使い方

●テーマ１「MOTTO!! イベント」

羽根田氏（司会）　３つのテーマに沿ってディスカッションを進めて行きます。まず最初に、「イベント」というキーワードについて、堀川でもっとこのようなことができるのではないかという、“とがった気づき”を述べていただきたいと思います。

丹坂氏　堀川というすごい資産があるのに、なぜ使わないのかと切実に感じたことが、イベントを開催するきっかけとなりました。ウォーターマジックフェスティバルは、「堀川の持つ不思議な力」をコンセプトに、堀川が持っている可能性を引き出して行くことを目的としています。舟運の復活、水辺での文化芸術の発信、オープンカフェの実施などを通して、水辺の魅力を知っていただこうと思い、一生懸命取り組んでいます。

秀島氏　水辺からは新しいものが生まれやすく、際どいところ程わくわくするものが生まれてきます。そういったところから新しいものを生み出す人が出てくることを待ち望んでいます。

山崎氏　「水辺×まちづくり」の“かける”が大事だというお話がありましたが、水辺と関係ないと思うことでも、水辺にどう掛け合わせてみるかという発想が必要です。ユニークな食べ物の数々をみてもわかるように、名古屋の人は掛け合わせることが得意です。水辺と何かを掛け合わせ、常にフレキシブルに提案していくことが、少しずつ水辺の活動を認知してもらう、あるいは活動が定着していくことの大きな一歩になると思います。

●テーマ２「MOTTO!! 活用」

羽根田氏　次のテーマは「活用」です。活用することで、イベントとは違い、長期間に渡る使い方が定着していきます。

秀島氏　船で見る視点は、いつもと違うものを感じさせます。舟運を活用することで、いつもと違った景色を感じさせる機会がもっと増えればよいと思います。

丹坂氏　堀川の活用というと、やはり舟運の復活です。名古屋城と納屋橋をつなぐ航路の途中には、円頓寺商店街があり、四間道の古くて良い町並みがあります。川が活用される事により、その沿川の町もどんどん変わっていける可能性があります。色々な人に水面から町を眺めてもらうことで、水辺の使い方のアイデアが出てくるのではないでしょうか。

また、水辺空間の活用を始めたいという方達に沢山集まっていただき、議論する場を作りたいと思っています。そういうところから、堀川を活用していきたいです。

山崎氏　活用には、非日常の活用と日常の活用との２種類がありますが、非日常の回数を増やせば、日常になるということではなく、それらは別のものとして考えていかなければいけません。

日常的に格好よくおしゃれに川を使いこなしている人をどんどん知ること、そして、そういう人達と一緒にイベントを行うことで、日常としても非日常としても、こういう風に水辺を使えるんだという感覚を伝え、広めていくことが大事だと思います。

●テーマ３「MOTTO!! 協働」

羽根田氏　最後のテーマは「協働」です。現在堀川には、地元の方や行政が入った、すごい協議会ができています。そのなかでは、どのような仕組みや、協働の形があったら良いと思われますか。

丹坂氏　ある程度行政に方向性を出してもらった方が、市民としてのまとまりが良いと感じています。名古屋の人は、発想はあっても前にも進めないところがあります。自由な発想がもう少し表に出て、うまく回る仕組み作りができないかなと思います。

秀島氏　今まで産学官民の役割や責任などの話し合いをしてきましたが、今日一番強く感じた事は、誰がやっても良く、やれる人がやるのが一番良いということです。活動している人が集まっているのは、それだけでも非常に楽しいので、義務感でやるのではなく、楽しくやるのが１番だと強く思いました。

山崎氏　　水辺で活動する、水辺で色々な人達とつながっていくということは、もちろん楽しいからやるという事がスタートラインだと思います。この、楽しいからやるということが段々と広がり、それで食っていくことにつながっていく可能性も十分にあると思います。

この種の活動をする時に、大事なことが３つあります。１つ目は、楽しいと感じること、あるいは自分がやってみたいと思うこと。２つ目は、意志。しかし、意志だけでは難しいので、やりたい事とできる事のバランスをとって、活動を進める事が必要です。３つ目は、社会が求めること。つまり、やりたいこと、できること、社会から求められていること、この３つのバランスをとりながら、水辺で活動をしていけば、活動が続いていくし、楽しいし、皆からも感謝されます。この３点を組み合わせて活動することが大事ですし、協働の仕組みを作る時は、この３点をうまくバランスさせるような仕組みが必要です。

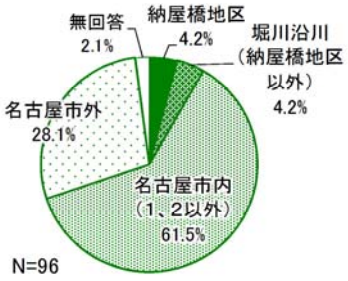
羽根田氏　　堀川は非常に大事な時期に来ています。ここで頑張ると、ブレイクスルーするチャンスが必ず来ると思っています。皆さんと一緒に、もっともっと前に進んでいきたいと思います。

あいさつ（服部宏氏　堀川 1000 人調査隊 2010 実行委員会事務局長）

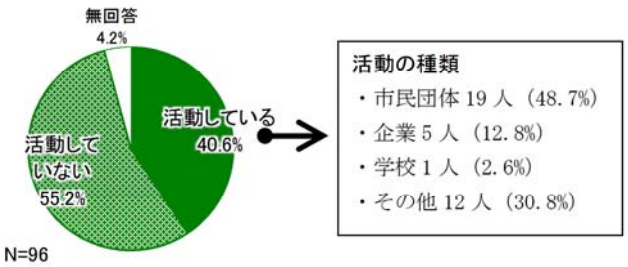
「堀川×まちづくり」として、ここにお集まりの 150 名一人ひとりが、本日の“気づき”を掛け算して、堀川に関わっていくと、ものすごい成果が出ると思います。本日は、誠にありがとうございました。

アンケート結果（回答者：96 人）

○お住まいはどちらですか

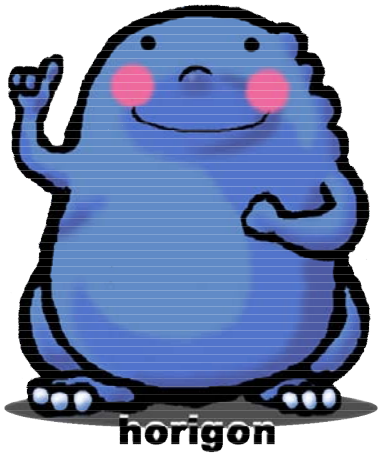


○堀川での活動をしていますか



○堀川の魅力をさらに高めていくため、誰が、何をする必要があると思いますか。　※主な意見を抜粋

・１にも２にも水質の改善。水辺に人は集まります。美しい水辺であれば。
・新たなコミュニティの形成。新しい発想を持った企画、まちづくり、活動する人の集まる仕掛け。関心を持つ人、関係者が常に集まり、意見の出せる場所（行政のサポート）。
・周辺企業をもっと巻き込む必要がある。
・活動があまり知られていない。地道な活動も必要だが、もっと情報を伝える工夫がいるのでは。
・多くの市民がとにかく何かに関わることだと思う。



堀川のイメージキャラクター
「ホリゴン」

堀 川 ま ち づ く り 構 想

～“うるおいと活気の都市軸・堀川”を再び～

堀川　×　ひと　×　まち

名古屋市 緑政土木局 河川部 河川計画課
〒460-8508　名古屋市中区三の丸三丁目１番１号
電 話 番 号：０５２-９７２－２８９１（堀川ダイヤル）
Ｆ　Ａ　Ｘ：０５２-９７２－４１９３
電子メール：a2881@ryokuseidoboku.city.nagoya.lg.jp

この冊子は古紙パルプを含む再生紙を使用しています。